

2024年7月19日

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
（１）案件名	持続可能な自給自足型の村を作る「グリーンナプロジェクト (Green × Inna Project)」第一期
（２）実施団体名	Inna Project
（３）実施期間	2024 年 1 月～6 月
（４）実施国	ガーナ共和国
（５）活動地域	アドミ村（首都アクラからから 91km）
（６）活動概要	
①活動の背景：	
アドミ村は、ガーナ共和国ボルタ州アコソンボ地区にあるのどかな漁村地帯です。近年ゴミ問題が深刻化し、美しい自然が失われつつあります。村人は収入を漁業に依存していますが、近年の気候変動の影響で漁獲量が低下し続けており、生活が維持できない状況になっています。 4 年前から Inna Project では年に 2 回寄付金や物資を届けていますが、物資を届けるだけでは持続可能なコミュニティを形成することは不可能であると考え、まずは村に現金収入をもたらすことを目的として農業プロジェクトを開始しました。さらに、収穫物をマーケットで販売して得た収入で、漁業用ボートのモーターを購入し、広範囲での漁業活動を可能にすることを目指しました。	
②活動の目標：	
村の子どもたちが教育を受けられるようにするため、伝統である漁業のサポートと、農作物の栽培・販売を通して、年間を通して安定した収入を得られるようにすることを目指しました。 具体的には、現在月平均 4000 円の収入を 1 万円以上にすることを目指します。まずは収入をあげるということよりも、少なくとも安定した収入を得られるようにするため、目標金額を月 1 万円に設定しました。	

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

月に3回村を訪問し、村人とプロジェクト推進のためのミーティングを実施しました。計3回のミーティングで準備が完了する予定でしたが、物価高の状況で貧困レベルの高い家庭から優先して参加者を決めるということが難しく、人選に2ヶ月（合計7回のミーティング）を要しました。5月末から畑を耕し始め、6月の頭に種まきが終了しました。

(2) 実施成果：

予定通りに進めることはできませんでしたが、今まで働きたくても全く仕事がなかった村人に仕事を提供できたことで、村人の働く意欲が大幅に向上しました。

村は極度の貧困状態で、原因も解決策もわからない状況でしたが、本事業を通して現実的な計画を立てたことで、問題を改めて客観的かつクリアに認識できるようになりました。状況を正しく把握した上で、自分たちの生活に繋げるための明確な目標ができたことで、村人のモチベーション向上につながりました。

村の人々は働く意欲はありましたが、仕事がなく働けない状況でした。子どもたちに働く姿を見せられず、子どもたちにとって働かないことが当たり前になってしまう恐れがありました。しかし本事業を通して、親が働いている姿を見せられたことで、「親が働いて子どもを守る」という村の本来の伝統的価値観を継承することができました。

(3) 得られた教訓など：

参加者は70人を予定していましたが、70名を上回る参加希望がありました。参加者の決定に想定以上に時間がかかり、プロジェクトが全体的に遅れてしまいました。インナプロジェクトとしては、これまで子どもの教育に関わる事業を展開してきましたが、本事業は全く初めての試みでした。初めての事業で予期せぬトラブルも多く、その上1年ほどかかる事業を半年の計画にしてしまったことが反省点です。今後は時間を有意義に使い、時間と予算に余裕を持って活動が続けていきたいと思います。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

現在は雨季のためあまり活発に活動できていないのですが、雨の降っていないタイミングを見計らって少しずつ農作業を進めており、収穫・販売開始は9月末～10月を目処にしています。

当事業で開始した農業や漁業用モーターの活用により村に収益が入り、村の子どもたちが学校に通えるようになることを最終的な目標としています。インナプロジェクトの監督がない状態でも、村人が主体的に活動しプロジェクトが回り続けるよう、村人と寄り添いながら、焦らず、一步一步着実に進めていきたいと思います。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

ほとんどの人が仕事がなくずっと家にいる状況が何年も続いていました。現時点ではまだ収穫がなく収益は出ていないものの、村人は「毎日仕事があるということが嬉しい」と言ってくれています。金銭や物資の提供といった支援の形ではなく、仕事を生み出すということの大切さを感じました。

(2) 活動の写真



村のチーフとの打ち合わせの様子



第一回目の打ち合わせの様子
家庭状況の調査のため女性も参加



漁業可能範囲の調査



モーター付きボートでの漁獲量の確認

(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

当事業は、インナプロジェクトとして新たな試みでした。今までは子どもの家の運営など教育に関するプロジェクトをメインに行ってきたため、農業という新たなジャンルでの試みで、自分たちが予想だにできなかった問題が発生し、思い通りに進みませんでした。また、インナプロジェクトの監督なしでも村人たちが主体的に進めていけるようにすることが重要なポイントだったため、指導方法を模索するところから始まるなど、全てが新しい体勢で始まり、団体としての運営方針を見直す良い機会となりました。

村人たちとの連携はもちろんですが、村人への指導・農地の管理・資金の管理等、役割分担を的確に

行う必要があり、組織構造を改めて見直す機会となりました。JICAの皆様から頂いたアドバイスを、ボランティアチームともミーティングをして共有し、組織基盤を固めることに努めました。結果として団体としても大きく成長することができました。本当にありがとうございました。